



# Press Release

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団  
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24  
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

第6回

第7回

## いのちのセミナー

～ひとのいのち 私のいのち を考える～

### 開催のお知らせ

#### 《第6回》

1 日 時 2018年11月2日(金) 18:30～20:00 ※18:00 開場

2 講 師 おがさわら のぞみ  
小笠原 望 氏 大野内科院長

〈演題〉「ひとのいのちも自然の中のもの～四万十川のほとりの診療所の物語～」

1951年高知県生まれ。1976年弘前大学医学部卒。1977年高松赤十字病院内科勤務、1997年大野内科(高知県旧中村市、現四万十市)副院長となり、2000年より院長。田舎のかかりつけ医としての訪問診療、神経難病やこころのケアに“白髪のゲリラ”医者として奮闘中。  
著書に『いのちを支える』『いのちばんざい』『いのちの仕舞い』など。「診療所の窓辺から」をスタイルアサヒに連載中。



3 応募締切 2018年10月4日(木) ※ハガキの場合は必着

#### 《第7回》

1 日 時 2018年11月29日(木) 18:30～20:00 ※18:00 開場

2 講 師 みなみ じきさい  
南 直哉 氏 福井県霊泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代

〈演題〉「魂のゆくえ」

1958年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、大手百貨店勤務を経て、1984年に曹洞宗で出家得度。同年に曹洞宗大本山永平寺に入山し、約20年の修行生活を送る。2003年に同寺を下山。現在、福井県霊泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代。  
著書に『語る禅僧』『なぜこんなに生きにくいのか』『刺さる言葉「恐山あれこれ日記」抄』『「悟り」は開けない』『禅僧が教える 心がラクになる生き方』など。



3 応募締切 2018年10月25日(木) ※ハガキの場合は必着

#### 【第6回・第7回 共通事項】

- 会 場 毎日新聞オーバルホール (JR大阪駅より徒歩8分)
- 主 催 等 主催/公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団 協力/西日本旅客鉄道株式会社
- 定 員 480名(参加無料)  
※事前のご応募が必要です。応募者多数の場合は抽選とし、当選者の発表は参加証の発送をもって代えさせていただきます。  
※当日は、参加証をお持ちの方のみ入場していただけます。
- 応募方法
  - ・当財団ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>) からお申込みください。
  - ・ハガキでもご応募いただけます。「希望の回(第6回又は第7回)いのちのセミナー参加希望」と明記のうえ、参加される方の氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4番 24号 JR西日本あんしん社会財団

  - ・1名様1回(ハガキは1枚)限りのご応募とさせていただきます。また、1回に2名様以上でのご応募はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。
  - ・第6回・第7回の各別に(ハガキも別々に)お申込みください。
- そ の 他 報道関係者用の座席をご用意いたします。取材をご希望の場合は、各回の1週間前までに当財団までご連絡いただけますようお願いいたします。(TEL: 06-6375-3202)  
なお、インタビューなど、講演とは別の時間を必要とする場合は、講演者側と調整のうえ回答させていただきます。  
セミナーの概要は、ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/inochi/>) でもご覧いただけます。

## 2018年度いのちのセミナー 講師の方々

<p><b>第1回</b> 2018年5月20日(日) <b>大林 宣彦</b> 映画作家</p> <p>「あなたのいのちと私のいのちを考えるとあなたは人であるから～」</p>		<p>1938年広島県尾道市生まれ。3歳の時に自宅の納戸で出会った活動写真機で、個人映画の製作を始める。16mmフィルムによる自主製作映画『EMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』が、画廊・ホール・大学を中心に上映され、高い評価を得る。</p> <p>1977年『HOUSE/ハウス』で商業映画に進出。同年、ブルーリボン新人賞を受賞。故郷で撮影された『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』は“尾道三部作”と称され親しまれている。長年にわたり精力的に作品を製作し数多くの賞を受賞。最新作『花筐/HANAGATAMI』が2017年12月に公開。</p> <p>2004年春の紫綬褒章受章、2009年秋の旭日小綬章受章。</p>
<p><b>第2回</b> 2018年8月9日(木) <b>関谷 直人</b> 同志社大学神学部教授 牧師</p> <p>「いのち輝かせるために今死と向き合おう～キリスト教から見た「いのち」「死」～」</p>		<p>1960年大阪府生まれ。1982年大阪芸術大学音楽学部音楽工学専攻卒業。1988年3月同志社大学大学院神学研究科博士課程(前期)修了。1990年日本キリスト教団霊南坂教会牧師。1992年米国パイン合同メソジスト教会日本語部牧師。1996年同志社大学神学部勤務(研究助手)。2006年同志社大学神学部教授。</p> <p>著書に『牧会の羅針盤—メンタルヘルスの視点から』『ドメスティック・バイオレンス そのとき教会は』など。『信徒の友』において「ヒット曲の神学」を連載。季刊誌『ミニストリー』において「教会指南」を連載。</p>
<p><b>第3回</b> 2018年8月22日(水) <b>山崎 直子</b> 宇宙飛行士 立命館大学客員教授</p> <p>「宇宙、ひと、いのちをつなぐ」</p>		<p>東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構 JAXA)に入社。国際宇宙ステーションの開発事業にエンジニアとして従事しながら、宇宙飛行士を目指す。2010年4月にスペースシャトル・ディスカバリー号に搭乗し、宇宙へ初飛行、国際宇宙ステーションの組み立て・補給を任務とするミッションに参加。2011年にJAXAを退職。現在は、内閣府宇宙政策委員会委員、立命館大学等の客員教授、各地科学館の名誉館長などを務めている。</p> <p>著書に『瑠璃色の星』『夢をつなぐ 山崎直子の四〇八八日』など。</p>
<p><b>第4回</b> 2018年9月21日(金) <b>垣添 忠生</b> 公益財団法人日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長</p> <p>「人はがんとどう向き合うか」</p>		<p>1941年大阪市生まれ。1967年東京大学医学部卒業。都立豊島病院勤務などを経て、1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務、1992年病院長、2002年総長に就任。2007年に退職し、その後、同センター名誉総長、公益財団法人日本対がん協会会長に就任。</p> <p>著書に『がんと人間』『妻を看取る日』『悲しみの中にいる、あなたへの処方箋』『巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ』など。</p>
<p><b>第5回</b> 2018年10月11日(木) <b>佃 祐世</b> 弁護士、自死遺族</p> <p>「生きたいのに生きられなかった命～自死遺族の立場から語る～」</p>		<p>山口県生まれ。1998年に当時司法修習生の夫と結婚。その後、夫は裁判官となり、4人の子宝にも恵まれる。2007年に突然夫を自死で亡くす。夫の遺志を継ぐために司法試験に挑戦し、40歳で合格。2013年から弁護士として活躍している。2016年「はつかいち法律事務所」を設立。自死遺族として、弁護士として、自死遺族支援弁護団のメンバーとして、自死予防や自死遺族支援活動にも精力的に取り組んでいる。</p> <p>著書に『約束の向こうに』。</p>
<p><b>第6回</b> 2018年11月2日(金) <b>小笠原 望</b></p>	(今回参加者募集)	
<p><b>第7回</b> 2018年11月29日(木) <b>南 直哉</b></p>	(今回参加者募集)	
<p><b>第8回</b> 2019年3月17日(日) <b>浜村 淳</b> パーソナリティ 映画評論家</p>		<p>1935年京都市生まれ。同志社大学文学部卒業後、本格的にタレント活動を始める。1974年からMBSラジオの『ありがとう浜村淳です』のパーソナリティを担当。タレントとしては初めて、国立大学(和歌山大学経済学部)の講師となったことで話題になった。その後1994年に追手門学院大学文学部講師として再び教壇に立った。</p> <p>著書に『話上手で心をつかめ』『さてみなさん聞いて下さい 浜村淳ラジオ話芸』『源氏物語 花はむらさき』『京都人も知らない京都のいい話』など。</p>

(敬称略)